

仙台市

地域活動の事例紹介

# おらほ！のまちづくり

## まちづくりの ヒント発見！？

地域では、いろんな  
創意工夫をしながら、  
まちづくりに取り組んで  
います。ここにご紹介する  
事例が皆さんの活動の参  
考となればと思います。

## 目次

地域に愛される公園へ～荒町の魅力を再発見～・・・1P  
～みんなの荒町公園活性化事業実行委員会～【荒町地区】

伊達藩足軽集落（野尻地域）のにぎわい創出への取り組み・・・2P  
～野尻いくする会～【野尻地区】

若いうちから地域とのつながりを・・・3P  
～館パンフキン（おやじの会）～【館地区】



## お知らせ・・・



## コミュニティソーシャルワーカー(CSW)にご相談ください ～住みよい地域づくりをお手伝いします～



「CSW（シー・エス・  
ダブリュー）」と呼ん  
でいます

「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」をご存じですか？

CSWは仙台市社会福祉協議会の各区・支部事務所にいます。地域の皆様から寄せられる福祉課題について、その解決に向けた取組みや地域づくり活動の支援を行っています。支援にあたっては、地域にある様々な団体や相談機関、事業所などと連携できるよう、地域の社会資源とのつなぎ役もつとめます。

お話を丁寧に伺いながら、地域の実情に沿って一緒に考えます。お気軽にご相談ください。

### ■CSWの活動事例

高齢の男性が孤立しないよう緩やかな交流の場が  
つくれないかな？



- ・地域包括支援センターと課題共有
- ・近隣の店舗に協力依頼
- ・地域団体や企業と企画の検討
- ・関係者との連絡調整



新たな集いの場  
「シニア男子のコーヒー  
の集い」がスタート！



### ■お問い合わせ お近くの市社会福祉協議会各区・支部事務所まで

- 青葉区事務所（Tel.022-265-5260）
- 宮城野区事務所（Tel.022-256-3650）
- 太白区事務所（Tel.022-248-8188）
- 青葉区宮城支部事務所（Tel.022-392-7868）
- 若林区事務所（Tel.022-282-7971）
- 泉区事務所（Tel.022-372-1581）

## 発行

- 若林区役所まちづくり推進課  
電話 022-282-1111（代表）
- 泉区役所まちづくり推進課  
電話 022-372-3111（代表）

- 秋保総合支所総務課  
電話 022-399-2111（代表）
- 市民局地域政策課  
電話 022-214-6129（直通）

# 地域に愛される公園へ～荒町の魅力を再発見～

～みんなの荒町公園活性化事業実行委員会～

## 地域資源を活かしたい！

荒町公園は、荒町のメイン通りから横道へ一本入った場所にひっそりとたたずむ閑静な公園です。子どもたちが遊べる遊具があり、広々とした敷地には、四季の移ろいが楽しめる大きな銀杏や、アジサイ等が植えられています。

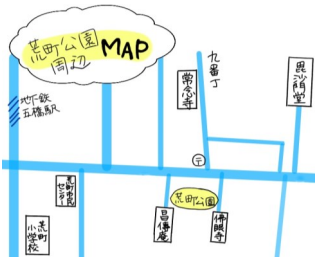
荒町の中心部に位置し、地域住民が集いやすく、戦後から親しまれてきたまさに地域資源といえる荒町公園ですが、残念なことにつながらずあまり利用されなくなり、知名度も低くなってしまいました。それから昔から荒町に住む荒町公園愛護協会の方々が、地道に公園の美化に努めてきました。その取り組みを応援して、地元の方々に荒町公園を知ってもらうことにより、もっと荒町に興味を持ってもらい、さら

には地域のつながりをより強めるため、平成29年度から荒町市民センターが事務局となり実施する地域力創造支援事業により、様々な活動を開始しました。

この事業を進めるにあたり、荒町地区町内会連合会、荒町地区社会福祉協議会、荒町商店街振興組合、荒町公園愛護協会、荒町地区老人クラブ連合会、五橋地域包括支援センター、荒町児童館、第一学院高等学校仙台キャンパス、そして荒町市民センターをメンバーとした実行委員会を立ち上げ、年間を通して様々なイベントを企画し地域を盛り上げようと活動しています。



緑豊かで広々とした荒町公園



手書きの荒町公園地図

## イベントによるきっかけづくり

平成30年度もより多くの方に参加してもらえるよう、子どもから大人まで楽しめるイベントを企画しました。具体的なイベントとしては、「荒町公園のアジサイを観る会」「ハーブティーを楽しむ会」「シャボン玉&バルーンフェスタ」「みんなで太極拳！」等です。



講師のお話、みなさん興味津々！

「荒町公園のアジサイを観る会」では、参加者である地域の方から珍しいアジサイをいただき、挿し木にしていずれ公園に植える予定です。実行委員会では、今後もアジサイをたくさん植えて「アジサイ公園」として親しまれるようにしたいという声も聞かれました。

また、昨年度、荒町小学校の児童が90名ほど参加し、大変盛り上がった

「シャボン玉&バルーンフェスタ」を今年度も引き続き企画していましたが、当日はあいにくの雨により中止となりました。準備段階から実行委員会と高校生ボランティアが協力し、リハーサルも念入りに行ってきたため、準備してきたことを次のイベントに活かしていきたいと考えているようです。



子どもたちが大喜びのバルーンフェスタ  
(写真は平成29年度のもの)

様々な切り口からイベントを企画することで、それぞれのイベントに興味を持った方々が参加してくれることが狙いです。

事業初年度の平成29年度は、荒町公園は「イベントが開催される場所」という限定的な認識にとどまりましたが、これからはイベントがない時でも「みんなが主体的に集い、楽しめる場所」になってほしいという実行委員会の願いが込められています。

## 生まれたつながりを大切に

この事業の目的は、公園を活かすことで、荒町に住む方々に「地域を知って興味を持ってもらうこと」「地域に愛着を持ってもらうこと」です。

荒町公園という一つのツールから人が集まり、交流が生まれ、地域の良さや愛着を喚起することで、地域の方々の結びつきが深まっていきます。普段見

なれて素通りしてしまっているまちのなかでも、少し視点を変えて歩いてみると「この地域って知らないことがもっとあるんだ！」と、意外と面白いことに気づくかも知れません。

荒町公園愛護協会の方々の手により、いま荒町公園には若いどんぐりの木が植えられています。将来、木が大きく成長し

たとき、子どもたちがどんぐりで遊んだり、小鳥の餌になったりすることを楽しみに植えたそうです。同会は、これからも魅力ある公園づくりに向けて、より一段と取り組んでいくように感じられました。

実行委員会の活動やイベントを通して、地域の団体や町内会、学生などのつながりが生まれ、地域のために活動するという同じ目的をもって進むことで、また新たなつながりが生み出されています。実行委員会の皆さんは「今後、地域力創造支援事業が終了しても、引き続き地域に根差すような活動を目指していきたい」と話しておられました。

夏のイベントでは、爽やかな  
フレーバーウォーターも★



## 事例のポイント

どの地区にもある公園でも、地域の人が大切にしていくことで、立派な地域資源になります。資源を活かしたイベント等を実施することにより、交流が活性化だけでなく、より自分たちの地域に愛着が持てるようになります。

# 仙台藩足軽集落(野尻地域)のにぎわい創出への取り組み

～野尻いくする会～

## 野尻いくする会の発足

秋保の最西部に位置する野尻地域は、古くは仙台と山形を結ぶ二口街道の交通の要所として関所が置かれ、伊達家仙台藩の警護を司った足軽衆の集落としての歴史があります。その証とも言える二口街道の通行手形などを今に受け継ぎながら、豊かな自然と調和した山里の暮らしを守っています。



満開のそば畑の向こうには糸岳がそびえています

蔵王国定公園・県立自然公園二口峡谷の麓に位置しており、市内中心部から車でわずか一時間余りで訪れることができるため、気軽にありのままの自然と触れ合えるのが野尻の特徴です。

野尻地域は平成30年4月1日現在35世帯77名の小さな集落で、高齢

化率は58.4%と、秋保地区の中で最も高く、次世代の担い手不足が深刻となっています。

地域の高齢化が進んでいく中、「自然豊かな野尻の特性を活かして、特産の野尻そばや山菜などを提供したり、山里暮らしの体験などを通して、野尻を訪れる方々との交流の機会を増やし、地域を元気にしよう」という地域住民からの声があがりました。そして平成28年10月、野尻の魅力をみんなに知ってもらうため地元町内会を軸に「野尻いくする会」を立ち上げ、一丸となって活動に取り組んでいます。

平成31年には、地域の念願であった山形市へと通ずる二口林道の開通が予定されています。野尻を訪れる人が増えることを見据え、「自然と調和した豊かな野尻の魅力を生かした体験観光・交流活動を企画・実行し、生き生きとした笑顔が集う地域づくりを目指しています」と会長の佐藤さん。

## 野尻交流カフェ「ばんどころ」運営 — 拠点づくり

平成29年10月、野尻いくする会が中心となり地元の集会所を改修して、同団体の活動拠点となる野尻交流カフェ「ばんどころ」を開設しました。「ばんどころ」は、二口エリアへの観光客や山岳系アウトドア来訪者の休憩場所として地元食の提供や歴史文化の紹介をしている



オープンセレモニーでのテープカットの様子

ほか、地元住民や野尻を訪れた方々の交流の場としても広く活用されています。

また、東北工業大学、宮城手打ちそば研究会、緑を守り育てる宮城県連絡会議、秋保市民センターなど様々な団体との連携を図り、秋保温泉旅館組合や仙台観光国際協会な

ど観光関連団体からの協力を得ながら、野尻地域ならではの体験型観光の創出に力を注いでいます。

会員の皆さんは、「これまでは単なる街道の通過点だった野尻が、地域の新たな交流拠点、そして秋保西部の観光スポットを創設する起点となるよう頑張りたい」と意気込んでいました。二口林道の開通に向けて、観光の重要拠点として更に期待が高まっています。



野尻交流カフェばんどころ内部の様子。情報提供コーナー、パネル展示、野尻の自然をビデオ放映するTVを設置しています。



## 野尻の自然 — 山里体験観光の実施

野尻いくする会では、野尻地域の人々や豊かな自然とのふれあいを通じて、普段の生活では味わえない山里の地域文化や大自然を感じてもらって体験観光に取り組んでいます。

平成30年7月には、体験活動を通じて交流できるよう「のじり山里体験倶楽部」を発足しました。小学生の親子を倶楽部会員として迎え入れ、野尻の北に流れる名取川で「天神淵川遊び体験」を開催し、野尻の清流を体感してもらいました。参加者



川の中の生き物取りや自然観察…カジカガエル、カジカ、カワゲラの幼虫などを取り観察しました。

からは「子育て中の家族にとって貴重な体験だった」という意見があり、好感触を得られたそうです。併せて県道62号線(仙台山寺線)から天神淵までの通路を車両が入れるよう簡易整備をするともに、天神淵周辺の除草等を行うことで、四季折々の景観を見せる秋保西部の新たな観光資源の創出に

取り組みました。

冬には、雪深い野尻を都会の子ども達や家族の皆さんに体験してもらおうと「雪遊び体験」が開催されました。佐藤さんは「地元住民にとってマイナスイメージの強い雪ですが、かまくら作りやすりすべりなど、参加した子ども達みんなが笑顔で楽しんでおり、山里体験観光の取り組みに手ごたえを感じました」と話していました。

### 【野尻交流カフェ整備経過】

- 平成29年 6月～9月 野尻集会所厨房施設増築工事
  - 平成29年 6月～10月 地元食メニュー、レシピ作成
  - 平成29年 9月～ 歴史文化、自然ビデオ作成、情報コーナー設置
  - 平成29年 10月14日 野尻交流カフェ「ばんどころ」オープンセレモニー
  - 平成30年4月～ 野尻交流カフェ「ばんどころ」定期運営開始
- ※営業は土曜日、日曜日の10時～14時(冬期間休業)

### 事例のポイント

住民が少ない地域においても、地域資源を生かし、会員制による魅力的な体験観光を実施するなど、多くの人に何回も来てもらう工夫をすることで、内外でたくさんの交流が生まれ、活性化につながられます。

# 若いうちから地域とのつながいを

～館パンプキン（おやじの会）～

## 地域とのつながりのはじめの一步

「小学生だけでなく、中学生との交流、小中学校の先生との交流を密に図っていこう」というスローガンを平成30年度に掲げ、20数名のお父さんが子ども達と一緒に活動する館パンプキン。会員は小学生のお父さん達がメインと思いきや、子どもが小学校を卒業しても活動を続けるお父さん達の方が多いそうです。



作成したオバケカボチャ

館地区は広葉樹が多く、毎年秋になると町内全体が紅葉と黄葉に彩られます。また、同時期にイベントで作成したオバケカボチャをメイン通りに数十個並

べており、深まる秋の景観の一部として住民に定着しています。「晩秋の館をオバケカボチャ（＝パンプキン）で埋め尽くしたい」「おやじ（＝パパ）の集まり」で館パンプキンとなりました。「地元でおやじの知り合いをつくるのは大変。いい機会だから」と奥さんに背中を押された副会長の細野さんは、「子どもの付き添いで参加した雪遊び後の打ち上げに初めて参加し、宴会が終わるころには館パンプキンの一員となっていた」と話します。また、「働いているうちは仕事上のお付き合いなどがあるため、地域とのつながりがなくても気にならない。つながりたくても時間や余裕がないという方が多いと思います。しかし、ここは戸建の持ち家が多く、定年後もずっと同じ顔ぶれで暮らしていくことになるので、若いうちからの地域とのつながりはやはり大事」と感じているそうです。

## 子ども達と全力で遊び、本気で楽しむ お父さん達

館パンプキンでは、小学校の隣の広い土地でじゃがいもとかぼちゃを育てています。春に畑にうねを作るところから始め（なんと今年は20本も！）、植え付けをし、暑い中、毎週のように草取りなどの畑の手入れ作業を行います。収穫したじゃがいもとかぼちゃはその後のイベントに活用します。じゃがいもは、町内会の夏祭り



♪じゃがいも収穫祭♪

フライドポテトに変身し、ビールやジュースとともに販売されます。お父さん達の店は大人気で、毎年お祭りの途中で完売してしまうほどです。かぼちゃはPTAと共催で行う秋のハロウィンパーティーで、中身をくり抜いてユニークな表情のオバケや可愛いネコのジャック・オー・

ランタンを作り、イベントに華を添えます。大人も子どもも仮装しての仮装コンテストや、「トリック オア トリート」の合言葉で町内をねり歩き、楽しみながら行っていることが自然と地域交流に繋がっています。

その他にも、夏や冬に泉ヶ岳での野外活動でキャンプファイヤーをしたり、雪の中をスノーシューでの散策や雪合戦をしたりと、年間を通してお父さん達が全力で子ども達と遊び、自身も本気で楽しんでいる館パンプキンの今後の活動に目が離せません。



大盛況の  
ハロウィンパーティー

## さらに交流の場を広げ、強まる地域の絆

館パンプキンの活動はこれだけにとどまらず、小学校の野外活動にも帯同して登山のサポートをしたり、児童センターでのイベントで子ども達と遊んだり、プラレール大会では線路を複雑で立体的に組み立てて子ども達を楽しませたりと様々なところから頼りにされています。



小学生たちと泉ヶ岳で

「子ども達と接しているうちに、町内のどこに行っても声をかけられるようになりました。いいも

のだなと感じます」と会長の熊谷さん。見知らぬ人に声をかけると警戒されることもある昨今、「子ども達から話しかけられ、気軽に挨拶を交わしコミュニケーションを図れる嬉しさを感じます。時には大変なこともあるけど、活動がいやだと思ったことはない」とも話していました。

「今後もこれらの活動を続けていきながら、子ども達の学年を超えた付き合いが広がっていくことを見守り、子ども達だけでなく、その保護者も一緒に活動してさらなる交流を図りたい。そして、まだ館パンプキンに入っていないお父さん達からも理解や協力を得られることも目指していきたい」と今後の展望を教えてくださいました。館パンプキンの活動は、地域の絆を着実に強くしています。

### 事例のポイント

活力あるお父さん世代による地域活動が、地域の交流を活性化させています。普段の仕事などとの両立のため、まずは自分たちが楽しめるような取り組みから始めることが重要です。